

## 冬景色の大湊へ5ヶ月ぶりの帰国 (護衛艦「せとぎり」帰国行事)



1月21日(金)、大湊地方隊(総監海将武居智久)は、ソマリア沖・アデン湾海賊対処第6次水上部隊として派遣された護衛艦「せとぎり」の帰国行事を執り行った。

外気温度マイナス1度で時折吹雪に見舞われる天候の中、松本大輔防衛大臣政務官、自衛艦隊司令官(海将倉本憲一)をはじめ、来賓、隊員家族、大湊地区隊員約350名が出迎えた。

「せとぎり」艦長(2等海佐西脇匡史)の「わが国の国益に寄与し国際社会に期待に応えられたことを誇りに思う。」との帰国報告の後、松本防衛大臣政務官が「ソマリア沖における護衛任務は緊張を強いられる過酷なものであったと思う。その困難を克服した諸官に深く敬意を表す。」と、倉本自衛艦隊司令官が「約3ヶ月にわたり、海賊対処行動に従事し、その任務を完遂したことに感謝する。」と訓示した。

帰国行事の後、隊員と家族は岸壁で152日ぶりの無事の帰還を心から喜びあっていた。

## 大湊地方隊スキー競技の開催 「快晴の釜臥山スキー場、大いに沸く！」



2月24日、大湊地方隊(総監:海将武居智久)はスキー競技を、釜臥山スキー場において実施した。当日は大湊・北海道地区所在の各部隊が4チームに分かれ、アルペン、ノルディックの各競技で日ごろの訓練の成果を競い合った。

午前中のアルペン競技では、北海道チームが他チームを圧倒していたが、引き続き行われたノルディック競技で、第25航空隊、第73航空隊大湊航空分遣隊チームが底力を見せ徐々に巻き返し、終盤のリレー競技で得点を重ね、見事3年連続での優勝を勝ち取った。

競技種目は他にも各部隊指揮官によるアルペン、ノルディックレースやスキー初心者による各レースが実施され、会場は大いに盛り上がった。また、順位に関係なく個人の頑張りや競技を盛り上げた選手や特に印象深かった選手に対しては、総監から特別賞のメダルが授与された。

閉会式において、総監から「大湊におけるスキーは、海軍時代に開始されたものである。大湊地方隊は、冬期における体力練成の重要な手段としてその伝統を継承してきた。」と訓示があり、隊員は、大湊地方隊のスキーの歴史の深さと訓練の重要性を改めて認識した。

2011年3月

3月11日(金)14時46分M9.0の  
大地震発生

【宮城県仙台市上空(左)、岩手県大船渡市上空(右)からの撮影】



【救援活動状況】



## 「おおよど大湊初入港」



大湊地方隊(総監:海将武居智久)は、4月15日(金)佐世保から大湊への転籍後初入港となる護衛艦「おおよど」(艦長・本山勝善2佐)の出迎えを実施した。

「おおよど」は3月4日(金)佐世保を出港後、3月16日(水)第15護衛隊に編成替えされた。当初3月上旬に大湊に入港予定であったが、東日本大震災対処のため、岩手県広田湾沖で約1ヶ月間捜索救助活動等に当たっていた。

当日は、春らしい穏やかな天候に恵まれ、むつ市長をはじめとする来賓と大湊在籍部隊隊員が、大湊を新しく母港とする「おおよど」を温かく出迎えた。約半年前に大湊から佐世保に赴き「おおよど」に臨時勤務していた隊員は、「久しぶりに出身地である大湊に戻り安心した。十分に英気を養い次の出港に備えたい。」と力強く語った。

「第64回憲法記念下北駅伝競走大会  
海上自衛隊大湊チーム連覇」



大湊地方隊(総監:武居智久海将)は、5月3日(火)むつ市で行われた「第64回憲法記念下北駅伝競走大会」に参加し、大いに活躍した。

今年は、東日本大震災対処のため、例年より練習期間が短く、また選手のなかにも震災で実家が被害を受けた者もあったが、復興に向けての元気を発信すべく、主任指導官である大湊弾薬整備補給所長のもと、持久走集合訓練に取り組んできた。

当日は、天候に恵まれ、絶好のレース日和の中、午前10時に、一般男子の部17チームがむつ市運動公園陸上競技場を一齐にスタート、6区間22.9Kmで白熱したレースが展開された。海自大湊Aチームは、1区の浅水士長(第25航空隊)が先頭に立つと、2区の板垣3曹(第25航空隊)も区間新記録の快走を見せ2位との差を開き、後続も首位を守りきって、1時間12分の記録で見事優勝を果たした。海自大湊Bチームは昨年からの順位を2つ上げ4位入賞、今回初出場の選手で構成した海自大湊Cチームも9位と健闘して、海上自衛隊チームの層の厚さを強く印象づけた。

また女子の部は、今年からコースが変わり、5区間9.7Kmを14チームで競い、海自大湊チームは健闘するも8位に終わったが、レース後、来年こそ優勝を!と、誓いを新たにしていた。

この他にも、大湊地区に所属する部隊からは5チームが参加した。

「余市防備隊開隊40周年記念演奏会」



大湊音楽隊(隊長・樋口好雄3佐)は、6月18日(土)19日(日)の両日、余市防備隊開隊40周年記念行事の一環として演奏会を実施した。初日は、「よいち保育園開園60周年」を記念した演奏会を宝隆寺の本堂で開催し、集まった園児や養護老人ホーム「かるな和順」の方々に音楽を届けた。

19日(日)は、余市町中央公民館で「余市防備隊開隊40周年記念演奏会」が行われ、約600名の町民が訪れた。合唱曲「ビリーブ」では、余市混声合唱団と同合唱団に所属する余市防備隊前任伍長の加藤勉曹長が、美しいハーモニーを披露し、「ソーラン節」をポップ調にアレンジした「ソーラン・ファンク」では、演奏と聴衆の踊りがみごと一体となり、会場は一気にクライマックスへと達した。アンコールでは、東日本大震災の復興への想いが込められた清水大輔作曲「AllWishes～すべての願いを込めて～」が演奏され、会場は感動に包まれた。

## 海自大湊クルー「まさかりレガッタ」で力走



7月24日(日)、むつ市田名部川ボートコースにおいて市民参加型ボート大会「まさかりレガッタ」(むつ地区ボート協会主催)が開催され、海上自衛隊大湊地区所在部隊の有志たちが参加し大会を盛り上げた。

今年は東日本大震災被災地チャリティー大会「まけねど東北」も兼ねて、過去最高の91クルーがエントリー、性別や経験に合わせ「ごった煮」「ごった煮マスターズ」「マジギレ」「マドンナ」の4部門に分かれ実施された。大湊地区所在部隊からは20クルーが参加し海上自衛官の「力漕」を見せた。

結果は、「マジギレレース」に参加した「第25航空隊地上救難」クルーが予選から圧倒的な力を発揮し、決勝では、残り100メートルで昨年2位のクルーを逆転、そのまま逃げ切り念願であった優勝の栄冠を手にした。「ごった煮マスターズレース」では、大湊地方總監部幕僚長を含む各指揮官等が集まった「海自大湊コマンドーズ」クルーが、第3位となったほか、「マドンナレース」では、今回、初めて女性自衛官のみのチームが2クルー参加し、力漕と応援で大会を盛り上げ特別賞を受賞した。また、大湊地区では健全な余暇活動の一環として地域との交流を推進していることもあり多くの隊員が民間チームのクルーとして参加し、地域の人たちと一緒にレガッタを楽しんだ。

## 大湊ねぶた出陣



大湊ネブタ祭りが8月5日(金)から7日(日)までの3日間開催され、大湊地方隊(総監・山口透海将)をはじめとする大湊所在部隊から延べ400人の隊員が参加した。

今年の海上自衛隊ネブタは、加藤清正の「虎退治」を題材として製作された。東日本大震災を虎に見立てて、それを制する姿を震災復興と重ね合わせ、4月中旬から製作を開始し、高さ3.7メートルの立派なネブタが仕上がった。

8月5日のネブタ運行初日は午後から、大湊ネブタ合同委員会による出陣式が行われ、夕方からはむつ市観光協会が主催する花火3000発と湾内に停泊している護衛艦「ゆうぎり」、「はまぎり」、「ちくま」、多用途支援艦「すおう」の電灯艦飾が花を添えた。12台のネブタがライトアップされる中、夜空にくっきりと精悍な加藤清正と鋭い眼光の虎の海自ネブタは、未曾有の大災害に立ち向かう東北の人々の姿を彷彿とさせた。

3日間のネブタ祭りには、幕僚長をはじめとする各部隊指揮官、前任伍長及び女性隊員ら35名がネブタ踊りを披露し、太鼓、はやし(笛)もテンポよく元気に演奏し、ネブタ運行を大いに盛り上げた。

東日本大震災からの復興を祈願し、大湊所在部隊が一丸となりネブタ製作、踊り練習等に取り組んだ結果、海自ネブタは地域の住民の方々々に大きな感動を与えた。



## 市民とのふれあいコンサート



海上自衛隊大湊地方隊(総監・山口透海将)は、9月23日(金)青森県むつ市下北文化会館で大湊音楽隊(隊長・樋口好雄3佐)による「市民とのふれあいコンサート」を開催した。

“絆”をテーマにした演奏会はこのメインは、司会を務める池田麻美:青森テレビアナウンサーのナレーションで、親子や仲間たちの絆を表した約50分にも渡る大曲『子供のための交響詩「ジャングル大帝」』。アフリカのジャングルに生息するライオンや象などの動物親子の絆を描いたストーリーを音楽で表現し、目を閉じればまるでその場にいるかのような臨場感溢れる演奏に、聴衆は興奮を抑えきれない様子で聞き入っていた。

後半は市民から送られてきたリクエストに応え、投稿者のエピソードを添えて「嵐メドレー」や「ビリーヴ」を演奏。そして、震災を経た今、最も聴きたい曲の一つといわれている「ふるさと」を隊員の歌と共に演奏すると、客席にも大きな歌声が広がり、会場全体が一つになった。最後は『行進曲「軍艦」』で締め括り、大きな拍手の中、演奏会を終了した。

## 大湊基地で青森県陸海空自衛隊殉職隊員合同追悼式及び大湊地方隊殉職隊員追悼式を実施



大湊地方隊(総監・山口透海将)は10月19日(水)及び20日(木)の二日間、穏やかな秋晴れのもと青森県陸海空自衛隊殉職隊員合同追悼式及び大湊地方隊殉職隊員追悼式を実施した。

青森県陸海空自衛隊殉職隊員合同追悼式は、執行者大湊地方総監並びに共催者陸上自衛隊第九師団長(田邊揮司良陸将)及び航空自衛隊北部航空方面隊司令官(重久修空将)により執り行われ、青森県に在住の遺族二十二名をはじめ、来賓及び各部隊指揮官等約三百名が参列、厳粛かつしめやかに営まれ、殉職隊員四十一柱のめい福を祈った。

国家斉唱、儀じょう隊拝礼、黙とう、執行者による追悼の辞、衆議院議員中野渡詔子氏による慰霊の辞、追悼電報披露に続き、音楽隊が「慰安する」を奏でる中、執行者、共催者、遺族並びに来賓など参列者が白菊の花を祭壇に供えた後に、弔銃を斉射し殉職者のめい福を祈った。最後に、青森県遺族会会長の亀山肇氏が遺族を代表してあいさつされ式を終えた。

翌日の大湊地方隊殉職隊員追悼式は、大湊基地内の慰霊碑前において、遺族二十三名、来賓及び隊員約百五十名が参列、殉職隊員六十九柱のめい福を祈った。

## 大湊地方隊駅伝競技21チームが健脚を競う



大湊地方隊(総監・山口透海将)は11月10日(木)「平成23年度大湊地方隊駅伝競技」を大湊弾薬整備補給所構内で実施した。同競技には北海道地区を含む大地隊隷下部隊のほか、第15護衛隊、第25航空隊、第73航空隊大湊航空分遣隊、大湊システム通信隊及び下北海洋観測所の参加が得られ、男性19チーム、女性2チームの21チームが参加した。

やや肌寒さはあったものの晴れ間の広がる天候の中、競技委員長(大湊弾薬整備補給所長東省二2佐)の開会宣言の後、前回優勝した航空部隊チームの北村1士が堂々と選手宣誓を行い、大湊地方総監のスタートの合図により、各チームは、5区間(1区間:男子3200m、女子2200mのコース)で健脚を競った。

成績は、総合の部で第25航空隊・第73航空隊大湊航空分遣隊の航空部隊チームが優勝して連覇を達成し、チーム対抗の部においても男女ともに第25航空隊・第73航空隊大湊航空分遣隊チームが優勝と航空部隊の活躍が目立つなか、9チームが参加したオープンの部では大湊造修補給所チームが優勝し場内を沸かせた。

懸命にタスキをつなぐ各選手の姿は、応援していた隊員に深い感銘を与えると同時に、惜しくも優勝を逃したチームの選手は2年後の大会での必勝を期していた。

## 城ヶ沢小学校閉校式で第25航空隊へ感謝状



第25航空隊(司令・岡田真典1海佐)は、11月19日、大湊航空基地に隣接するむつ市立城ヶ沢小学校(校長・安部俊夫)の閉校式において、同校の功労団体として、閉校記念行事実行委員長(吉田錦一PTA会長)から感謝状を贈呈された。

また、第25航空隊は、閉校式に先立つ10月21日に、「空から見た母校を子どもたちの記憶に残したい。」という先生方の強い要望を受け、川畑恵子教頭に引率された全児童31名に対して、体験搭乗を実施するとともに基地の施設などを紹介した。好天に恵まれた体験搭乗では、むつ湾と雄大な自然に囲まれた母校を上空から眺め、深く脳裏に刻んだ様子だった。その他、消防車の放水体験や、管制塔からの展望に感心したりと、職場体験の機会を心から楽しんでいるようだった。帰る際には、「大きくなったら海上自衛隊に入って、ここで勤務したい。」という児童もあり、好評のうちに終了した。

城ヶ沢小学校は、第25航空隊と隣接するだけではなく、同じ住所でもあり、両者の強いつながりがうかがえる。同校は、来年3月に135年の歴史に幕を閉じ、大湊小学校に統合されることになる。